

英語科学習指導案

I 単元 This is my HERO～あこがれの人を紹介しよう～

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

あこがれの人の特徴、考えや気持ちを伝え合う際に用いる英語の音声や文字、英語表現、文構造、言語の働きについての知識

あこがれの人の特徴、考えや気持ちを伝え合う基礎的な技能

②思考力、判断力、表現力等

あこがれの人について紹介する際に、相手の反応に応じて英語表現の選択・組合せをし、英語を用いて得意なことや特徴、考えや気持ちを伝え合う力

③学びに向かう力、人間性等

自ら進んで英語を用いて相手の反応を確かめながら、あこがれの人の特徴、考えや気持ちを伝え合おうとする態度

(2) 単元の価値

本単元は、"He/She can～." "He/She is～."等の英語表現を用いて、英語表現を書き写したMy HEROポスターを見せながら、あこがれの人の特徴、考えや気持ちを紹介する学習である。その価値は以下のとおりである。

本単元では、"He/She can～." "He/She is good at～ing～."を用いて表現することを通して、動名詞の文構造や言語の働きについての理解を深めることができる。また、My HEROポスターを用いて紹介し、作品を教室に掲示することは、あこがれの人を紹介する英語表現を書き写し、読み合うことで英語の文字や英語表現についての理解を深めることができる。さらに、授業中にコミュニケーションを図ることができなかった友達のあこがれの人について知ることができる。

友達に自分のあこがれの人について紹介することは、相手が知らない人について紹介することがあり、詳細に分かりやすく紹介するために、得意なことや年齢、職業、出演作品等の特徴やあこがれる理由について英語表現の選択・組合せをする必要感を高めることができる。さらに、自らの表現を相手に伝わりやすいものにしようとして英語表現の選択・組合せをし、相手の反応を確かめながら伝えたり聞いたりすることにつながる。

子どもたちは5年国語科の学習において伝記を読み、選択した特定の人物について紹介する学習を通して、自分以外の人物の生き方を知るよさに気づき、職業や功績等の人物紹介に必要な情報を理解している。本単元では、伝記に限らず、子どもたちが紹介したい人物を選択することができるため、紹介したいという意欲をもつことにつながる。また、友達のあこがれの人を知るとは、友達の好きなことや目標等の今まで知らなかった新たな一面を見付けるきっかけとなるため、友達のことをさらに詳しく知りたいという意欲を高めることにつながる。

(3) 今後の学習

ここでの学習は、6年「友達についての"True Or False"クイズ大会をしよう」において、"He/She is ～", "He/She can～."等の英語表現を用いたクイズを通して、友達の得意なことや住んでいる町、行きたい国や誕生日等を詳細に紹介する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「先生クイズ大会をしよう」において、"He/She is a ～ grade teacher." "He/She can ～."等の英語表現を用いて、英語で校内の先生についてクイズを出題し合う学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① "He/She is a ～ grade teacher." "He/She can ～."等の英語表現を用いて校内の先生を紹介する英語表現を理解してきた。このような子どもたちが、あこがれの人の得意なことや特徴、考えや気持ちを伝え合う英語表現を理解できるように、単元末の活動において用いることのできる"He/She can～."等の既習の英語表現を基に伝え合う帯活動を設定する。

校内の先生を紹介する英語表現を英語の音声で発音してきた。このような子どもたちが、あこがれの人の得意なことや特徴、考えや気持ちを表す英語表現を英語の音声で発音できるように、繰り返し発音するクレイジーマンキーゲームやマッチングゲームを行う機会を設定する。

② "He/She is a ～ grade teacher." "He/She can ～."等の英語表現の選択・組合せをし、校内の先生についてのクイズを出題できるようになってきている。このような子どもたちが、"This is my hero." "He/She can～", "He/She is～."等の英語表現の選択・組合せをし、あこがれの人について紹介できるように、構成や内容の異なる複数のモデルを提示したり、詳細に知りたいことについての質問やCheck Listを基に自らの表現を確認する機会を設定したりする。

③ 相手の反応を確かめながら、自ら進んで英語を用いて校内の先生についてクイズを出題しようとしてきている。このような子どもたちが、相手の反応を確かめながら、自ら進んで英語を用いてあこがれの人について紹介しようとするように、ALTのあこがれの人について伝え、コミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にした課題を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習（8／8時間目）

- 1 ねらい Check Listを基に自らの表現を確認し、相手を替えて繰り返しあこがれの人について紹介することを通して、相手の反応に応じて英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善して伝えることができる。
- 2 準備 Check List Question List
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・今までに"He can～."や"He is～."等を使ってあこがれの人について紹介してきたな。	○前時までに学習した英語表現を想起できるように、得意なことや特徴、考えや気持ちを伝える英語表現を問いかける。 ○英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善して伝

・毎時間少しずつ言えることが増えていったから今日は友達に分かりやすいように順番を整理したり伝え方も工夫したりしたいな。

えるという本時の見通しをもてるように、ALTがJTEの質問を基に英語表現の選択・組合せを改善するモデルを演示し、改善前と比較して詳細になった内容を問いかける。(イ)

めあて「友達にあこがれの人をもっとくわしく紹介できるようになる」

「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

相手の反応に応じて、あこがれの人について紹介する英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善して伝えている

2 あこがれの人について紹介する。

- ・スケートの宇野晶磨選手について伝えるぞ。"He is good at skating.", "He is cool"と紹介しよう。
- ・前回までに話す速さと笑顔はチェックが付けられたな。今日はアイコンタクトを特に意識して取り組んでいきたいな。
- ・グループで紹介したら友達に"How old is he?"と質問されたよ。"He is 22 years old."と答えよう。次に紹介するときには年齢も入れて紹介してみよう。
- ・紹介の中に年齢も入れたら、友達に"Great!"と言われたよ。最初よりも分かりやすく伝えられたな。
- ・友達のモデルみたいに、アイコンタクトを意識したら、だんだん友達の目を見て紹介できるようになってきたよ。
- ・好きな選手や自分の考えや気持ちも詳しく紹介できるようになったし、アイコンタクトもできるようになったよ。

3 本時のまとめをする。

- ・あこがれの人や自分の考えや気持ちをアイコンタクトを意識して紹介できるようになったよ。友達のあこがれの人も知ることができてよかったな。

○自らの考えや気持ちに合わせて英語表現の選択・組合せをし、あこがれの人について詳細に紹介できるように、ホワイトボードに複数の英語表現を掲示し、発音するよう促す。(イ)

○あこがれの人について紹介する自らの表現のよさや改善点に気付けるように、Check Listの確認や、グループ内で詳細に知りたいことについて質問・返答をする機会を設定し、必要に応じてQuestion Listを参考にするよう促す。

○英語表現や伝え方の選択・組合せをし、改善する手がかりを得られるように、学級全体で紹介する人を教室の両端に固定し、聞く人が自由に動いてあこがれの人について紹介をする場を設定し、相手の反応やCheck Listを確認するよう促す。(ウ)

○あこがれの人について詳細に伝えることや伝え方を改善するよさを感じられるように、子どものモデルを基に、内容や伝え方のよかった点とその理由を問いかける。

評価項目

あこがれの人について英語表現や伝え方の選択・組合せを改善して伝えている。 <行動②>

○友達やALTと関わったことについての達成感をもてるように、「できるようになったこと」「意識したコミュニケーションポイント」を観点として、Check Listを参考にしながら最終自己評価と成果を記述するよう促す。

指導と評価の計画（全8時間）

目標	あこがれの人について紹介することを通して、英語表現を用いて三人称で得意なことや特徴、考えや気持ちを表現・理解できる。			
評価 規準	(①知識及び技能)得意なことや特徴、考えや気持ちを伝える英語表現を理解している。 得意なことや特徴、考えや気持ちを伝える英語表現を英語の音声で発音している。 (②思考力、判断力、表現力等)得意なことや特徴、考えや気持ちを伝える英語表現の選択・組合せをし、あこがれの人について詳細に紹介している。 (③主体的に学習に取り組む態度)相手の反応を確かめながら、自ら進んであこがれの人の得意なことや特徴、考えや気持ちを英語を用いて分かりやすく紹介しようとしている。			
言語 材料	Who is your hero? This is my hero. (He/She) is (name). (He/She) is ~years old. (He/She) is a good (soccer player/baseball player/tennis player/skater/singer/athlete). (He/She) is (cute/cool/great/beautiful). (He/She) can (hit a homerun/dribble fast/spin beautifully/sing well). (He/She) is good at (swimming/dancing/karuta).			
見方・ 考え方	友達にあこがれの人を詳細に分かりやすく紹介できるように、相手の反応に応じて、情報を整理しながらあこがれの人についての考えや気持ちを形成し、再構築すること			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つか む	1	○ALTのあこがれの人について紹介するモデルを見聞きし、紹介の内容について話し合い、試しの活動をして課題をつかむ。 課題 友達のことをもっと詳しく知るために、英語であこがれの人の得意なことやその人についての考えや気持ちを紹介できるようになる。	○あこがれの人について詳細に紹介するという見通しをもてるように、本単元の目標をルーブリックにしたCheck Listや日本や世界で活躍する人の写真を提示する。(ア)	◇モデルを見聞きし、分かったことについて発言したり記述したりしている。 <発言・Try シート①>
	追究する	1 ○職業の英語表現を用いたカルタをし、あこがれの人の職業について紹介する。 1 ○得意なことを表す英語表現を用いたクレイジーマンキーゲームをし、あこがれの人の職業と得意なことについて紹介する。 1 ○あこがれの人を調べ、紹介する内容を話し合う。 1 ○身長、年齢、出演作品等の特徴を表す英語表現を用いて、あこがれの人について紹介する。 1 ○考えや気持ちを表す英語表現を用いて、マッチングゲームをし、あこがれの人について紹介する。 1 ○あこがれの人とその理由について質問・返答をし、英語表現を書き写してMy HEROポスターを作る。	○職業を表す英語表現を繰り返し発音できるように、カルタを取る際に読み札を発音するルールを設定する。 ○得意なことを表す英語表現を繰り返し発音できるように、ゲームで用いる得意なことを表す英語表現の書かれたシートとさいころを用意する。 ○あこがれの人について紹介したいことをもてるように、グループ内で「あこがれの人について知りたいこと」を視点として話し合う時間を設定する。 ○あこがれの人について詳細に紹介できるように、質問の英語表現をまとめたQuestion Listを提示する。 ○紹介したい内容に合わせて英語表現の選択・組合せができるように、"He/She is~.", "I want to~."等の複数の英語表現を提示する。(イ) ○得意なことや特徴、考えや気持ちを表す英語表現と意味を照らし合わせられるように、英語表現の見本と四線入りの学習プリントを用意する。	◇あこがれの人の職業を英語の音声で発音している。 <行動①> ◇あこがれの人の得意なことを英語の音声で発音している。 <行動①> ◇あこがれの人について伝えたい内容を調べて記述している。 <学習プリント③> ◇あこがれの人の特徴について質問・返答をし、特徴を詳細に伝えている。 <行動②> ◇あこがれの人に対する考えや気持ちを紹介している。 <行動②> ◇あこがれの人の得意なことや特徴、考えや気持ちを表す英語表現の選択・組合せをし、書き写している。 <行動②>
まとめ	1	○ALTや友達にあこがれの人について詳細に分かりやすく紹介する。(本時)	○あこがれの人の得意なことや特徴、考えや気持ちを伝える英語表現や伝え方の選択・組合せができるように、グループ内で質問・返答をしたりCheck Listを基に自らの表現を確認したりする機会を設定する。(ウ)	◇あこがれの人について英語表現や伝え方の選択・組合せを改善して伝えている。 <行動②>